

空想の森



「空想の森」上映委員会提供

食卓。口達者な首相が大写しになっているテレビをパチンと消し「カボチャおいしい」。食器の触れ合う音。北海道新得町に移住し、農作に生きる2家族を見つめたドキュメンタリーだ。写真。土の上で働き、飯を食い、風呂に入る。何も起

自然に溶け込み土に生きる家族に見る豊かさ

きない。農作を続けるか否かといった悩みはある。カメラは、おそらく寄りたいのを我慢して引いて撮り続ける。若いパパは「貧乏だけど食べ物いっぱい、貯金ないけど新しいっぱいの生活を築きたい」とサラリ。声高ではない。

白菜畑でのママと赤ちゃん。赤ちゃんはママから離れて寝かされて泣く。そして草むしりに励むママの元へゆっくりとはっていく。一幅の絵のような場面。「奇跡的に撮れた」と、これが初作品の田代陽子監督。豊かさの意味を考えさせられる。

大阪・第七芸術劇場で公開中。
【鶴谷真】

映